

オスプレイをどこでも飛ばさせない——全国で闘いを！

大月純子

七月二三日早朝、オスプレイを積んだ自動車運搬船グリーンリッジは、沖合移設事業によって出現した岩国基地の軍港に着岸し、その日の午後にはオスプレイ一二機が岩国基地に陸揚げされてしまった。

前夜から岩国市民が尾津沖の堤防で監視を行い、早朝から岩国市民やピースリンク広島・呉・岩国が平和船団を出し、海上と陸上から「オスプレイの配備反対!」「オスプレイを岩国で飛ばすな!」「今すぐスクラップにしてアメリカに持って帰れ!」と抗議の声をあげた。午後には尾津の堤防で緊急集会が行われ、全国から六〇〇を超える人が集まった。

陸揚げされた当初、日本政府は、安全性が確保されるまでは飛ばさないとしていたが、これまでの経過から考えれば、日本政府は米軍の運用には介入できていないことはわかっており、岩国においても、いつ飛ばされるかわからないという不安の声があがっていた。

さらには、陸揚げされた翌々日の朝から岩国基地内でエンジンテストが行われており、周辺住民から「気持ちわるい」という苦情の声もあがっている。こうした状況を受けて、岩国爆音訴訟団（〇九年三月に提訴、現在係争中）は、八月三日に、これまでの請求に加えて「オスプレイの飛行およびエンジンテストの差止」という「訴えの追加的変更申立書」を山口地裁岩国支部に提出した。これは、絶対に岩国においてオスプレイの飛行をさせてはならないという思いと共に、すでに行われているエンジンテストが、地上騒音だけではなく、低周波被害をもたらしている可能性もあり、ひいては飛行につながるものであるからである。オスプレイの差止を裁判に訴えたのは全国で初めてだろう。

今年六月にフロリダで起きたオスプレイの墜落事故についての報告書では、四月のモロッコの事故と同様に「人為的ミスで機体には問題ない」とされ、国防総省は「次のステップを決めるため日本政府と共に取り組む」と発表した。

これを受けて、森本防衛大臣は八月三〇日に山口県と岩国市を訪問し、フロリダの事故の分析と日米合同委員会での運用ルールの検討作業が終わるまではしないしながらも、二種類の事前飛行を行うことを通告した。これに対し、岩国市民は早朝から市役所前広場に集まり抗議の声をあげた。岩国で事前飛行を行うということは岩国基地周辺だけではなく、広島をはじめとする中国地方に存在する米軍低空飛行訓練エリア・ブラウンルート周辺が墜落の危険にさらされることになる。しかも、ブラウンルートだけではなく、全国各地に存在する低空飛行訓練エリアで訓練は計画されており、さらには、沖縄から岩国へ向けてオスプレイが飛行するルートの直下には伊方原発もある。

現在、岩国市民の中には、沖縄県民の強い怒りを受けて、日米両政府は沖縄・普天間を持つていくことができずに、結果的に岩国に本格的に配備され、常駐することになるのではないかと不安を覚える人もいる。米軍海兵隊が駐留しているのは沖縄と岩国だけで、今回の岩国への先行配備は岩国と沖縄を分断する行為だとの怒りの声もあがった。

岩国では、九月九日に予定されている沖縄県民大会に呼応して、同日午後二時よりシンフォニア岩国において「9・9沖縄連帯 艦載機もオスプレイもいらない! 岩国集会」を開催することが決定している。また、広島においても、この岩国集会に連帯する形で、同日午前二時から原爆ドーム前で「オスプレイ配備反対! 9・9沖縄県民大会連帯! ヒロシマ集会」を行う予定である。

今こそ沖縄と岩国が連携を深めるとともに、それ以外の地域の人たちにも、オスプレイが飛ぶことは自分たちの生活のただなかに墜落の危険が及ぶことを伝え、岩国でも沖縄でもどこでもオスプレイを飛ばさない! 今すぐアメリカに持って帰れ! という声を全国へとさらに広げていかなければならない。

（おおつき・じゅんこ／ピースリンク広島・呉・岩国）